参考資料

近年の自然災害の発生状況



近年の自然災害の発生状況



○ 近年では、毎年のように全国各地で自然災害が頻発し、甚大な被害が発生。



①鬼怒川における浸水被害 (茨城県常総市)



②阿蘇大橋地区の 大規模土砂災害 (熊本県南阿蘇村)



③小本川の氾濫による浸水被害 (岩手県岩泉町)



④赤谷川における 土砂・洪水氾濫及び流木による被害 (福岡県朝倉市)

【平成23年1月霧島山噴火】 (H29.10、H30.3噴火)



⑤新燃岳噴火による広域降灰被害 ⑥小田川における浸水被害 (鹿児島県霧島市)



【平成30年7月豪雨】

(岡山県倉敷市)



⑦神戸港・関空における浸水被害 ⑧厚真町の大規模土砂災害 (兵庫県神戸市、大阪府泉佐野市) (北海道勇払郡厚真町) (兵庫県神戸市、大阪府泉佐野市)



【平成30年9月台風第21号】【平成30年9月北海道胆振東部地震】

【令和元年8月前線に伴う大雨】【令和元年9月台風第15号】【令和元年10月台風第19号】



9牛津川の浸水被害 (佐賀県小城市)



①倒木の状況 (千葉県鴨川市)



⑪千曲川における浸水被害 (長野県長野市穂保地先)



平成30年北海道胆振東部地震



- 〇 9月6日3時7分に北海道胆振地方中東部の深さ約35kmでマグニチュード6.7(暫定値)の地震が発生した。この地震により胆振地方で最大震度7を観測し、被害を伴った。その後、M6.7 の地震の震源を含む南北約 30km の領域で地震活動が続いた。**1
- 〇 これにより、死者42名、重軽傷者762名、家屋の全半壊等14,632棟の被害が発生。**2
- 〇 広域的に土砂災害が発生し、この崩壊面積は13.4km²と明治以降の主要な地震災害の中で最も多くなった。これらの被害に対し、新たに直轄で土砂災害対策を進めることから、その推進体制を確保するため、「厚真川水系土砂災害復旧事業所」を設置した。 ※1:気象庁「平成30年北海道胆振東部地震の評価(平成30年9月6日) ※2: 浏览庁「平成30年北海道胆振東部地震の評価(平成30年9月6日) ※2: 浏览庁「平成30年北海道胆振東部地震に上る被害及び、浏览機関等の対応状況(第34報)(平成31年1月28日(月)14時30分)

■震度分布図 (出典) 気象庁



- 各観測占の電度分布図(電央近傍を拡大)
- ※地図上に表示されている震央や震度観測点の位置は、描画の都合上、実際の位置 と異なる場合があります。
- ■広域で土砂災害が発生 (出典)国土地理院



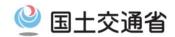












台風第15号による主な被害状況

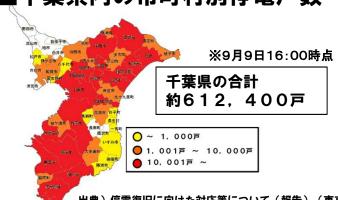
- 〇 令和元年台風第15号では、特に関東地方において猛烈な風が吹き、観測史上1位の 最大風速や最 大瞬間風速を観測。
- 〇 横浜港南本牧はま道路に、錨泊していた貨物船が衝突。また、横浜港金沢区福浦地区の護岸約600 mが倒壊し、工業団地を含む広範囲が浸水。
- この暴風により、7都県で最大約934,900戸の停電が発生。また、8都県において全半壊等、約76,700戸の住家が被害を受けた。特に千葉県の被害が甚大。

■港湾施設の被災状況





■千葉県内の市町村別停電戸数

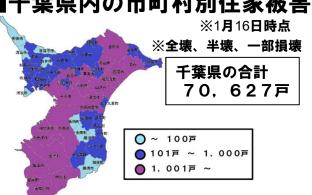




倒木の状況(鴨川市内)

出典)停電復旧に向けた対応等について(報告)(東京電力パワーグリッド株式会社)

■千葉県内の市町村別住家被害数

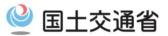




ブルーシートの設置状況(芝山町)

出典)「令和元年台風15号(第110報)及び台風19号(第53報)について」(千葉県) より国土交通省が作成

令和元年台風第19号による被害状況



令和元年台風第19号の豪雨により、極めて広範囲にわたり、河川の氾濫やがけ崩れ等が 発生。これにより、死者90名、行方不明者9名、住家の全半壊等4,008棟、住家浸水 70,341棟の極めて甚大な被害が広範囲で発生。

※消防庁「令和元年台風第19号による被害及び 消防機関等の対応状況(第32報)」(令和元年10月28日 6:30現在)

阿武隈川系阿武隈川(福島県須賀川市他)

信濃川水系千曲川(長野県長野市) (千曲川左岸 58.0k付近) 荒川水系越辺川(埼玉県東松山市他)

【海影位置】埼玉県川城市





